

## 特別展「絵本太功記の世界ー」

絵本太功記は、寛政11年（1799）年初演の人形浄瑠璃で、のちに歌舞伎化されました。「絵本太閤記」などに基づき、明智光秀（作中では武智）の反逆を中心に秀吉（真柴久吉）を絡ませ、全十三日の話を一日一段に構成しています。十段目「尼ヶ崎の段」は、「太十」（たいじゅう）と呼ばれて有名です。

秀吉は乱麻の時代をその知恵と工夫で乗り切り、国内の統一に成功した立志伝中の人物であり、最も日本人が好む武将でもあります。普通であれば「絵本太閤記」のごとく、不世出の英雄の生涯を芝居に描き、人々に夢と希望を与えつつ人気を集めることも可能であったでしょう。ところが「絵本太功記」は違います。中心人物は逆臣、明智光秀なのです。

内容は一見、謀反人の悲惨な最期を描いたもののように見えますが、行間からにじみ出てくるのは光秀に寄せる作者の共感です。

本展示では、歌舞伎に描かれた歴史に視座をおいて展示構成を行い、庶民に喝采をもって受容された絵本太功記から、時代の風刺精神を明らかにします。

会期：9月29日（土）～11月4日（日）＊会期中無休

開館時間：9時～17時（入館16時30分）

入館料：大人600円、小中学生300円

＊長浜・米原市内の小中学生は無料

講演会：「太閤記のさまざまー実録から伝説へー」

10月13日（土） 13時30分～15時 ＊入場無料

講師：中村博司氏（元大阪城天守閣館長）

## 展示資料

①明智光秀画像復元模写（原資料 本徳寺蔵）

滋賀県立安土城考古博物館蔵

折り烏帽子をつけ、小袖の上に簡素な直垂（ひたたれ）を着し端然と坐する光秀の画像。本徳寺は明智光秀の子、南国梵瑠（なんごくぼんけい）が建立したと伝えられる臨濟宗の寺院である。賛は慶長18年（1613）6月6日妙心寺90世蘭秀宗薫によるもので、没後30年に添えられた。本資料は本徳寺に伝わる明智光秀画像を詳細に分析して、描かれた当時の状態に復元したものである。



②木造 明智光秀坐像

近代

福知山城 蔵（福知山市郷土資料館）

御霊神社の御神体の製作にあたり試作された光秀の木像。御霊神社は福知山市中心部、西中ノ町 238 に鎮座し、宇賀御霊大神と明智光秀命を主祭神とする。福知山城主朽木氏が明智光秀の合祀を許した。当社が所蔵する明智光秀関係文書 3 点は福知山市指定文化財である。

③山城国山崎地形之図（大山崎合戦図）

江戸時代中期

福知山城 蔵（福知山市郷土資料館）

江戸時代の中期から後期にかけて描かれたものと思われる合戦図。大山崎合戦は天正 10 年（1582）中国征討中の羽柴秀吉が、本能寺の変を知って毛利氏と講和を急ぎ、山城国山崎で一挙に明智光秀を討滅した戦い。秀吉軍は中川清秀、高山右近、池田恒興の軍等が描かれている。

④本能寺焼討之図 真書太閤記

江戸時代後期

福知山城 蔵（福知山市郷土資料館）

本能寺の変で鍵を手に光秀軍と対峙する森蘭丸を描いた挿絵。後ろの窓の投影は、主君 織田信長であろうか。森蘭丸は織田信長側近の武士であり、父は森可成（よしなり）。美濃の

出身で本能寺の変で死亡。



- ⑤明治座新狂言明智左馬之助湖水乗切（立版古） 明治時代  
福知山城 蔵（福知山市郷土資料館）

明治座の新狂言の出し物を起こし絵に仕立てたもの。立版古（たてばんこ）とは厚紙を切り抜き、風景や芝居の一場面などを立体的に組み立てたものである。画題は、明智左馬之助すなわち明智秀満が琵琶湖の湖上を馬で越えたという伝説による。滋賀県大津市の西教寺には湖水渡りに使用したという馬具が伝わる。秀満は明智光秀の重臣で光秀の次女を正室に迎え、のち福知山城の城代を務めた。

- ⑥京都本能寺合戦（水野年方作） 明治時代  
福知山城 蔵（福知山市郷土資料館）

信長に一と鍬浴びせんとする安田作兵衛を描いた錦絵。安田作兵衛は安田国継（やすだくにつぐ）のこと。明智光秀配下の斎藤利三の家臣。本能寺の変では信長を槍で攻撃し、行く手を阻んだ森蘭丸に十文字槍で下腹を突かれた。作者である水野年方（1866～1908）は、月岡芳年の門人。美人風俗画のほか、本作品のような歴史画を得意とした。



- ⑦歌舞伎座番組（時今也桔梗旗揚ほか） 福知山城 蔵（福知山市郷土資料館）
- ⑧石碑・五輪塔（石垣転用石）室町時代～ 福知山城 蔵（福知山市郷土資料館）

福知山城の石垣に転用された墓石。五輪塔や宝篋印塔、そして南妙法蓮華經と名号を刻んだ室町期の墓碑など種々の墓石が石垣の転用材として活用された。写真からは宝篋印塔の反花座を逆さまにして平らな部分を使用していることが判る。石垣を短時間で積み上げるためには、これらの墓石が格好の材料であった。



⑨豊臣秀吉画像復元模写（原資料 多賀大社蔵）

滋賀県立安土城考古博物館蔵

多賀大社に伝わる神格化された最古の秀吉図像を滋賀県立安土城歴史博物館が復元模写したもの。原本は全体に絵の具が落ち、特に顔の部分の残りが良くないが修理の際、発見された軸木の墨書銘に慶長10年（1605）に堺の奈良屋が表具したことが記されており、それ以前に書かれたことが判る最古級の秀吉図像である。また高欄や御簾が描かれており、秀吉が神格化されていることが判る。本資料は、原本の失われた当初の色・形を化学的に分析し、手書きで写し取り復元したものである。



⑩秀吉出世物語屏風

江戸時代後期

個人蔵

絵本太閤記を敷衍して描かれた六曲一双屏風。いずれの隻にも独特な厚みのある金箔の雲を散らし、鑑賞者はあたかもその光景を見降ろすという「俯瞰構図」の画面が展開してい

る。右隻の画題は、史実である本能寺の変を中心に、秀吉が信長の草履を温めた話や流浪時代橋の上で蜂須賀小六と邂逅したことなどが散らしてある。また明智左馬之助の湖水渡りが描かれるなど伝承に彩られた屏風でもある。左隻の画題は、史実である山崎合戦後の織田信長の跡目争いを中心に激しい攻防戦や秀吉が太閤の官位を与えられるまでの道筋が描かれている。右隻に対してより歴史的表現の多いのが特徴である。

⑪ 賤ヶ岳合戦図

江戸時代後期  
個人蔵

⑫ 錦絵 山崎大合戦之図

一魁斎芳年画  
江戸時代後期  
個人蔵

天正 10 年（1582）6 月、山城乙訓郡大山崎村で行われた羽柴秀吉と明智光秀の合戦。その結果、秀吉が勝利し、信長諸将のなかで彼の地位が飛躍的に高まった。画面は向かって右手に高山右近、真柴久吉（羽柴秀吉）の馬印である千成瓢箪を描く。左手には光秀軍の桔梗の馬印が見える。

⑬ 錦絵 太平記賤ヶ峯大戦之図

歌川国輝画  
江戸時代後期  
個人蔵

天正 11 年（1583）4 月、近江賤ヶ岳を中心に行われた羽柴秀吉と柴田勝家の合戦。秀吉が勝利し、勝家は敗れて北庄城で自刃、秀吉の全国制覇の基礎が築かれた。画面は馬上の合郷五左衛門、激しく槍で攻める吹寫石松攻守を描く。合郷五左衛門は大聖寺藩主拝郷五左衛門、勝家方の勇猛果敢な武将として知られていたが 35 歳の若さで戦死した。

⑭ 錦絵 賤ヶ峯大合戦諸勇士高名之図

個人蔵



⑮錦絵 太平記四国征伐

個人蔵

⑯本朝百将図

江戸時代後期  
長浜城歴史博物館蔵

日本の代表的武将 100 人を二巻に分けて紹介している。

⑰絵本太閤記

江戸時代後期  
長浜城歴史博物館蔵

豊臣秀吉の生涯を絵入りで紹介した読本。七編八十四冊。武内確斎作、岡田玉山画。太閤記ものの一つとして広く読まれたが、文化元年（1804）絶版を命ぜられた

⑱長浜曳山祭狂言台本 絵本太功記

個人蔵

#### 出陳資料目録

出陳資料	法量	所蔵者
①明智光秀画像復元模写（原資料 本徳寺蔵）	一幅 80.4×38.0	県立安土城考古博物館
②木造 明智光秀坐像	一軀 高さ 14.0	福知山市
③山城国山崎地形之図（大山崎合戦図）	一枚 39.0×45.7	福知山市
④本能寺焼討之図 真書太閤記	三枚一組 37.0×75.0	福知山市
⑤明治座新狂言明智左馬之助湖水乗切（立版古）	一組（三枚統組上） 37.0×75.0	福知山市
⑥京都本能寺合戦（水野年方木版画）	三枚一組 34.0×69.0	福知山市
⑦歌舞伎座番組（時今也桔梗旗揚ほか）	一組 20.0×18.5	福知山市
⑧石碑・五輪塔（石垣転用石）	三基 五輪塔 高さ 38.5 五輪塔 高さ 41.5 永正の墓石 高さ 59.0	福知山市

⑨豊臣秀吉画像復元模写（原資料 多賀大社蔵）	一幅 103.5×55.0	県立安土城考古博物館
⑩秀吉出世物語屏風	六曲一双 156.5×336.0（一隻）	個人
⑪賤ヶ岳合戦図	一幅 51.5×74.0	個人
⑫錦絵 山崎大合戦之図	三枚一組 36.0×75.0	個人
⑬錦絵 太平記賤ヶ峯大戦之図	三枚一組 36.0×75.0	個人
⑭錦絵 賤ヶ峯大合戦諸勇士高名之図	三枚一組 36.0×75.0	個人
⑮錦絵 太平記四国征伐	三枚一組 36.0×75.0	個人
⑯本朝百将図	一卷 幅 38.0	長浜城歴史博物館
⑰絵本太閤記	五冊 22.5×15.0	長浜城歴史博物館
⑱長浜曳山祭狂言台本 絵本太功記	三冊	個人
以上	18件	

法量は縦×横 単位は cm